

## 総選挙を受けて上昇基調を強めるインド株式

Raku  
Yomi

楽読(ラクヨミ)

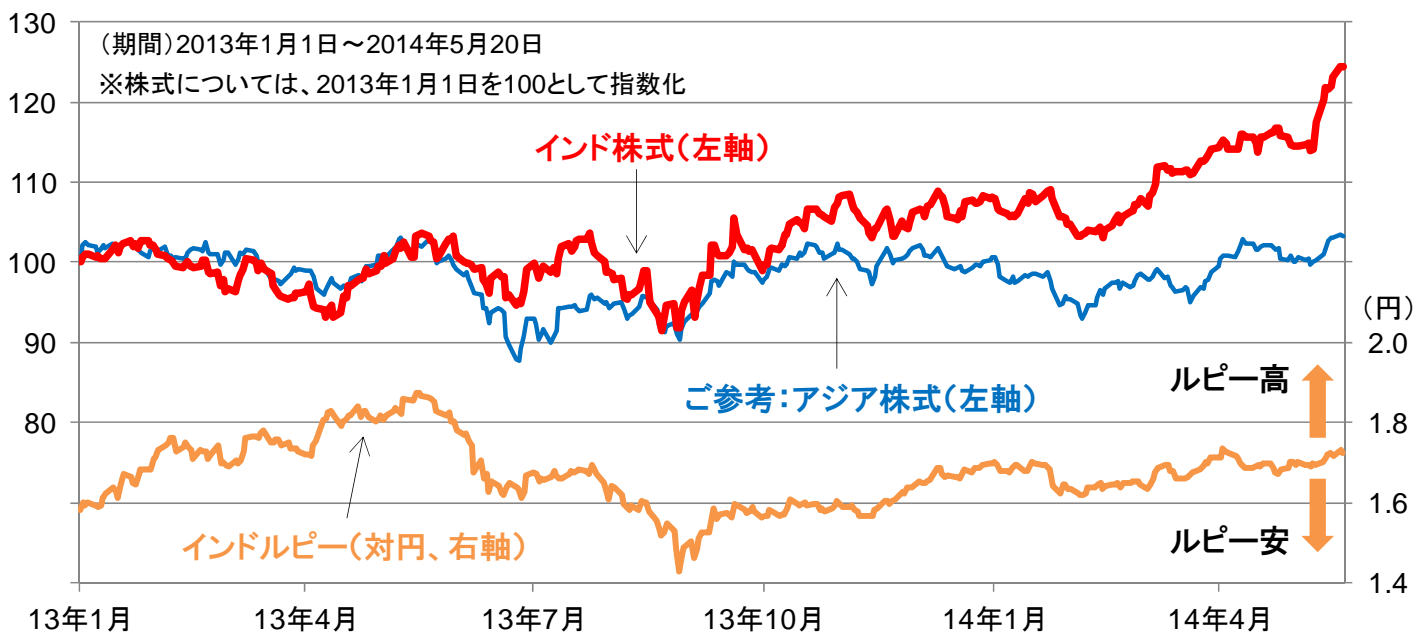
nikko am  
fund academy

インドでは、下院総選挙の開票が16日より行なわれ、与党インド国民会議派が議席を大きく減らし、最大野党のBJP(インド人民党)が単独過半数を獲得したことにより、同党を中心とする野党連合が圧勝しました。これにより、10年ぶりの政権交代が実現し、今月26日には、BJPを率いるナレンドラ・モディ氏が次期首相に就任する予定となっています。

足元までの数年間、マンモハン・シン現首相および与党インド国民会議派は高水準の経済成長率を維持できず、インフラ整備計画の遅れ、政府内の汚職などの問題が噴出していました。加えて、財政収支と経常収支の双子の赤字や失業率の悪化などの問題も抱えており、今回のBJPの勝利には、次期首相となるモディ氏への期待が込められていると考えられます。その背景として、モディ氏は、2001年より北西部グジャラート州首相を務め、州内の電力や交通などのインフラ整備、投資手続きの簡素化を進めることによる企業誘致などで実績を上げていたことが挙げられます。今後インド全土の統治においても、州首相としての経験を活かし、雇用創出やインフラ整備などの新たな政策を打ち出し、経済改革を進めることへの期待感が強まっています。

今回の総選挙は、4月初旬から約1ヵ月間の投票期間が設けられ、開票を迎えました。その間の出口調査や実際に開票が実施される中で、モディ氏率いるBJPを中心とする野党連合が勝利するとの見方が拡がり、インド株式市場は上昇基調を強めました。急ピッチの上昇で、市場にはやや過熱感がみられますが、今後、数週間における組閣や予算案発表、新首相による政策発表などが引き続き株式市場を支えるものと考えられます。また中長期的にも、BJPが議席の単独過半数を獲得したことは政権の安定につながり、モディ氏が改革を進めやすくなるとみられることから、インドへの注目度が高まっていくと考えられます。

## インド株式とインドルピーの推移



※インド株式:S&PムンバイSENSEX指数(インドルピーベース)、アジア株式:MSCI AC アジア指数(米ドルベース、日本除く)

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。